第2回 知っておきたい写真著作権＆肖像権セミナー・東京

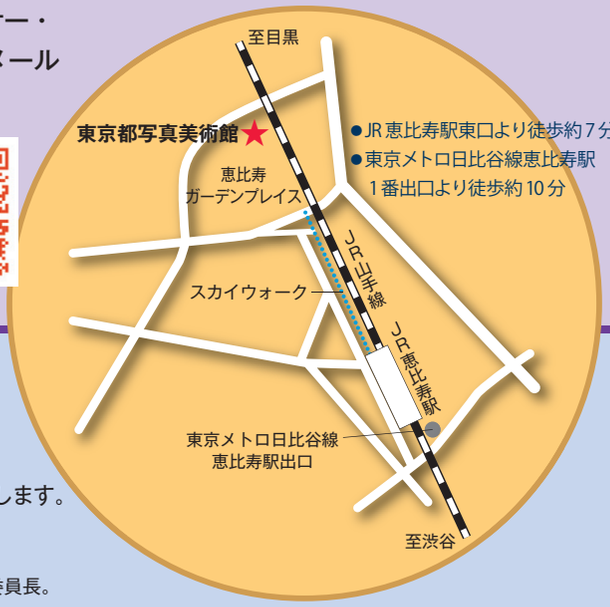
公益社団法人日本写真家協会（JPS）/ 一般社団法人日本写真著作権協会（JPCA）共催事業

2023年5月21日（日）

場所　東京都写真美術館 1F ホール
〒153-0062　東京都目黒区三田 1 丁目 13-3　恵比寿ガーデンプレイス内

参加無料（各回定員 180 名・当日受付若干名）
予約方法　QR コードからお申込下さい。メールの方は件名に「写真著作権セミナー・東京参加申込」と明記の上、氏名、午前、午後、連絡先（TEL、メールアドレス）を明記して下さい→ info@jps.gr.jp
※セミナーは諸般の事情により変更、中止になる場合があります。
最新情報は JPS の HP にてご確認下さい。
参加者特典　JPS 展入場券をお一人につき一枚進呈
（セミナー受付にて当日お渡しします）
司会：榎並悦子（写真家 / 日本写真家協会正会員）

申込受付
参加申込



午前の部　10:30~12:00（受付開始 10:00）

写真愛好家のための著作権講座 Q&A

JPS 写真著作権相談室に寄せられた事例を元にわかりやすく解説。個別の相談にもアドバイスします。

講師：**吉川信之**（よしかわ のぶゆき）写真家／日本写真家協会著作権委員会委員長

1969 年東京都生まれ。法政大学社会学部卒業後、フリーで雑誌を中心に活動。2021 年～著作権委員会委員長。
JPS 会員から寄せられた著作権相談の回答などの執筆を担当。
共著に『SNS 時代の写真　ルールとマナー』
（日本写真家協会編　朝日新聞出版）

午後の部　13:30~16:30（受付開始 13:00）（講演＆パネルディスカッション）

山岸伸（やまぎし しん）写真家／日本写真家協会正会員

Photo:
山岸事務所助手撮影

タレント、アイドル、俳優、女優のポートレート撮影を中心に活躍。出版された写真集は 400 冊を超える。人物撮影以外のジャンルにも精通し、ばんえい競馬、賀茂別雷神社（上賀茂神社）、球体関節人形など自身が魅力を感じた被写体を積極的に撮影している。企業人、政治家、スポーツ選手などの男性を被写体とした「瞬間の顔」シリーズでは、15 年かけて総撮影数 1,000 人を達成。また、近年は台湾の龍山寺や台北賓館などを継続的に撮影している。その秀逸な写真活動により平成 28 年日本写真協会賞作家賞を受賞。
公益社団法人日本広告写真家協会会員、とかち観光大使

「1 年間に 1000 人のポートレートを撮っている」

私は時代を創る時の人や、日本全国にある文化財などの撮影を積極的に行っています。ポートレートが中心で私の撮影には必ず人物が写ってきます。年間 1000 人以上の人物撮影をする中で最も気を付けているのは写真の二次使用に関する部分です。今年もたくさんの方を撮る予定ですが、更に慎重に考慮しながら撮影をしていきたいと思います。そのようなことをお話しできればと思っています。

大西みつぐ（おおにし みつぐ）写真家／日本写真家協会正会員

©Mitsugu Ohnishi

1952 年東京深川生まれ。東京綜合写真専門学校 卒業。1970 年代より東京下町や湾岸の人と風景、日本の懐かしい町を撮り続けている。写真集・著書に『下町純情カメラ』、『遠い夏』、『wonderland』、『川の流れる町で』など。個展、企画展多数。1985 年「河口の町」で第22 回太陽賞。1993年「遠い夏」ほかにより第18回木村伊兵衛写真賞。江戸川区文化奨励賞。2017 年日本写真協会賞作家賞。2017 年自主映画監督作品「小名木川物語」を公開。現在、日本写真協会会員、ニッコールクラブアドバイザー

「路上の時代、スナップショットの記憶 2023-1970」

これまで東京を中心にスナップショット撮ってきましたが、渋谷のような急激に変化していくような街角でなく、緩やかに時代が移り行くような下町が主な舞台でした。その、ほぼ 20 年おきの写真を少し振り返ってみます。町と人の記憶がスナップショットにいかに焼き付いているかを検証したいと思います。また、街中で人物を撮る際の大西流スナップショット術についてもお話したいと思います。

パネルディスカッション　山岸伸 × 大西みつぐ × 棚井文雄

街中で撮影するためのマナーや公表する際のルールを解説。これからの時代にストリートスナップを撮り続けていくために必要なことを、山岸伸氏、大西みつぐ氏とディスカッションします。

©Kohryu Matsuo

進行：**棚井文雄**（たない ふみお）写真家／日本写真著作権協会常務理事

東京工芸大学にて細江英公氏に学び、在学中より大倉舜二氏師事。独立後、『家庭画報』、『Wedge（新幹線グリーン車搭載誌）』、『レオン』での連載や、『フィガロ』、『ヴァンサンカン』、『別冊太陽』などで器、料理、リゾートの撮影を行う。中国、欧州での作品制作を重ね、パリ、ニューヨークなどで個展開催。文化庁芸術家研修員として作品制作。2005 年に渡英後、ニューヨークに拠点を移し 10 年に渡り活動。ストリートスナップを中心に世界各国で撮影を行い、フランス国立図書館、ニューヨーク近代美術館をはじめ欧米の美術館などに作品収蔵。著作権関連の著作として「ストリートスナップは死んだのか？Ⅰ、Ⅱ」（日本写真著作権協会 JPCA NEWS vol.11&24）、「以外と知らない写真の権利」『フォトコン』2021 年 1 月～12 月号がある。

JPS-HP

問い合わせ先　公益社団法人日本写真家協会　〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 番地 JCII ビル 303
TEL 03-3265-7451　FAX 03-3265-7460　info@jps.gr.jp　https://www.jps.gr.jp/

Mitsugu Ohnishi

©Mitsugu Ohnishi

大西みつぐ（おおにし みつぐ）

写真家／日本写真家協会正会員

「路上の時代、スナップショットの記憶 2023-1970」

これまで東京を中心にスナップショット撮ってきましたが、渋谷のような急激に変化していくような街角でなく、緩やかに時代が移り行くような下町が主な舞台でした。その、ほぼ 20 年おきの写真を少し振り返ってみます。町と人の記憶がスナップショットにいかに焼き付いているかを検証したいと思います。また、街中で人物を撮る際の大西流スナップショット術についてもお話したいと思います。

浅草 1972

ASAKUSA 2022

Shin Yamagishi

山岸伸（やまぎし しん）

写真家／日本写真家協会正会員

「1 年間に 1000 人のポートレートを撮っている」

私は時代を創る時の人や、日本全国にある文化財などの撮影を積極的に行っています。
ポートレートが中心で私の撮影には必ず人物が写ってきます。年間1000人以上の人物撮影をする中で最も気を付けているのは写真の二次使用に関する部分です。今年もたくさんの方を撮る予定ですが、更に慎重に考慮しながら撮影をしていきたいと思います。そのようなことをお話しできればと思っています。

Photo: 山岸事務所助手撮影

熱海芸妓見番／琴千代

銚子電鉄車掌／袖山里穂